

茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：6月13日（木）18：30～18：41

場所：アメリカ・ワシントン

（茂木大臣）

今日の14時30分から約3時間にわたりましてライトハイザー通商代表と日米貿易に関する協議を行いました。3時間のうち、1時間位は1対1、テタテで協議を行ったところです。今週は月曜、火曜日で実務者協議を行いまして、農産品、工業品の担当者同士で本日の協議に向けた論点整理などを行い、有意義な会合となったわけではありますが、今日の閣僚協議でそれを踏まえまして率直な意見交換をすることができました。閣僚レベルで議論を詰めるべき論点、だいたい明確になってきていると思いますが、まだ引き続き閣僚レベルでの協議も必要でありますし、またいくつかの技術的な論点については、今週のような形で、お互いの専門家同士で議論をさせ、協議を前に進めるという事で、ライトハイザー通商代表との間で一致をしたところでもあります。今月の末にはG20サミットが予定されておりまして、ライトハイザー代表とその前に、多分、大阪になるのではないかと思いますので、協議をすることで日程等今後調整することとなりました。

（記者）

お話しただけの限りで結構ですが、日米の立場の違い、前回の閣僚会合よりも縮まったのでしょうか。

（茂木大臣）

理解は深まっていると思います。それからお互いにですね、どういった立場であるかということ、今回特に実務者協議も行いましたので、かなり細かい点まで詰めた上で、お互いの立場があるか、そういう理解が深まったと思います。

（記者）

今の大臣のお話で今後の進め方とかですね、何を閣僚級でお話しになるかということ整理されたとのことですが、個別のことについて特にアメリカ側からの要求、主張が多かった点などお話しいただけますか。

（茂木大臣）

交渉の内容につきましては、まさに今協議の途中であります。相手方もありますし、今後の協議にも影響しますので、コメントは控えたいと思っておりますが、論点は整理されてきているのは間違いないと思っております。

（記者）

お話のあった交渉の進め方ですが、実務者のレベルで話を進めていくということは大臣の方からライトハイザー代表の方に提案されて、一致を得たということでしょうか。

（茂木大臣）

それぞれの分野ですね、農業、工業品とあるわけでありまして、こちらからやろうと言った分野もあります。向こうから実務者に下ろしてやろうという分野もありまして、お互い実務者同士で技術的な議論を進める必要もありますし、そのことが有益であるということで一致しております。

（記者）

実務者で今後議論を重ねていく見通しが立ったことについては、一定の前進と受け止めてよろしいでしょうか。

(茂木大臣)

前は覚えてらっしゃるかもしれませんが、東京で先月25日にライトハイザー通商代表と協議をしまして、実務者協議の可能性も含めて今後様々なことをやっていくというお話を多分したと思いますが、今日は実務者協議を進めるというふうに明確に申し上げたいと思います。

(記者)

確認ですが、実務者でやる品目というのは日米間であまり争いが無いというものが中心になるのでしょうか。

(茂木大臣)

そういう分野もありますし、技術的に詰めてみないと方向性が一致していても、お互いに考えていることが最終的に協定にしていくわけですから、一致するかという点で、実務者で詰めれば、詰め切れる問題なのか、場合によって閣僚クラスで判断しなくてはならない問題なのかと、それは実務者協議の進展等々を見ながら判断していきたいと思っています。

(記者)

理解が深まったということですが、トランプ大統領が、参議院選後にも成果を出したいと示されてますけれど、今回その道筋というのが見え隠れしたとの理解でしょうか。

(茂木大臣)

今、協議の途中ですので、具体的にいついつまでにどうするという事ではありませんが、参議院選後に早期に成果を上げたいということで、元々一致しておりますし、色んなシミュレーションと言いますか、そういった形での頭の体操をお互いしているところでございます。

(記者)

今日は個別の内容の具体的な品目の話、やりとりというのはあったのでしょうか。

(茂木大臣)

ありました。

(記者)

それは基本的に、交渉点となっている農産物、車も含めて・・・

(茂木大臣)

ありましたが、交渉の内容に関わりますので、ありましたということです。

(記者)

先ほど、閣僚レベルでやるべき論点がかなり整理されているという話でしたが、基本的に牛肉や自動車などの重要な品目については閣僚レベルで判断されるということでしょうか。

(茂木大臣)

それは内容に関わることで、コメントを控えます。

(記者)

アメリカはかねてから農業分野を念頭にかなりスピード感を意識していたところがあったと思うのですが、改めて今回も、とにかく早期にという部分でお話はあったのでしょうか。

(茂木大臣)

早期に成果を出したいということでは、日米双方で一致しているところでございます。

(記者)

前回の日米首脳会談の際に、トランプ大統領から8月には大きな発表ができるかもしれないということもありましたが、この実現性についてはいかがでしょうか。

(茂木大臣)

大きな発表があるとは言っていないと思っております。「We will be announcing some things, probably in August, that will be very good for both countries.」という言い方をされたと思います。

(記者)

先ほど大阪でのG20前に閣僚級の協議をなされる方向で合意したというか、そういう方向になったという話でしたが、G20では一定の成果とは言わないまでも何を求めている、何を目指しているのかということについて認識は一致しているのですか。

(茂木大臣)

G20におきましては、この貿易問題だけではなく、東アジアの問題、さらには国際情勢等々、幅広い問題について、胸襟を開いて、両首脳間で話をする事になると思っております。おそらく安倍総理もトランプ大統領も交渉の進展がどこまで行っているか、このことは報告を受けているわけでありまして、そういったことを基本的には確認をする場になるのではないかと考えております。

(記者)

さきほど、早期に成果を出したいということは日米双方一致しているということでしたが、さきほどの質問にもあったように、アメリカ農業分野での早期成果というか、バランスを取り戻したいという意向を持っているということ、上手くそれを使えば日本側の工業製品の削減というような要求に対してプラスに働くのではないかなと思うのですが、今回の協議で米側がかけている工業製品の関税削減ということについての前向きな見通しみたいなのは得られたのでしょうか。

(茂木大臣)

良いアドバイスだと思って、今後の協議を行うにあたって頭に入れたいと思います。

(記者)

まだ前向きな見通しを得られるには至っていないということでしょうか。

(茂木大臣)

前向きな見通しとは何ですか。

(記者)

工業製品の削減を日本側がきちんと要求して・・・

(茂木大臣)

要求はしています。

(記者)

確認ですけれども、今回の協議は今日で終わり、明日は無いということでしょうか。

(茂木大臣)

無いです。はい。

(記者)

今回の閣僚協議は、トランプ大統領がメキシコに対して関税を移民問題に絡めて関税発動を表明して、そのあと撤回しましたけれども、その事態があつてから初めての協議ということになると思うのですが、改めてトランプ大統領が関税をある種のカードに使ったこだわりというのが強い形で表明されたのではないかと思うのですが、これについてはどのようにお考えでしょうか。

(大臣)

まったくそういう話は出ていません。

(以上)